

2007年11月7日

「チャイナ・ディスカバリー・ファンド」受益者の皆様へ

安田投信投資顧問株式会社

### 香港株式市場下落について

11月5日の香港株式市場は、ハンセン指数で前日比1526ポイント安の28942.3ポイント(5.01%)と大幅な下落となりました。6日の香港株式市場は落ち着いた動きとなりましたが、「チャイナ・ディスカバリー・ファンド」の再委託先である国泰君安アセット(アジア)の見解をご紹介します。

#### <背景>

週明け5日の香港株式市場は、中国の温家宝首相が中国の個人投資家の香港株への直接投資の早期解禁について否定的な発言をしたことや、一定基準を満たす中国の機関投資家に対する証券投資を認める適格国内機関投資家(QDII)制度について、当局が香港株への投資比率の引き下げを指示したと伝わったことなどから、香港市場への資金流入期待を後退させ、中国本土系銘柄を中心に下落しました。香港株式市場のインデックスの下落率は、ハンセン指数が対前日比5.01%、H株指数が同6.39%、レッドチップ指数が同6.31%となりました(なお、11月6日はハンセン指数が対前日比+1.71%、H株指数が同+1.06%、レッドチップ指数が同+0.12%と回復しました)。

#### <今後の見通し>

温家宝首相は、中国の個人投資家の香港株への直接投資を解禁する前に、個人投資家の知識の向上、香港や中国の株式市場を保護する為の規制の準備やリスク調査の必要性があると発言しました。市場はこれらの発言を、8月以降の株式市場の急騰を受けての利益確定のための売りの理由として、過剰に反応したものと見ております。香港株式市場は、中国本土からの資金が大量に流入するとの期待から、上昇基調が継続し、本年の年初来の上昇率(11月6日現在、香港ドルベース)はハンセン指数+45.47%、H株指数が同+76.27%、レッドチップ指数が同+87.73%となっており、今回の温家宝首相の発言は香港株、特に8月以降の急騰を懸念した発言と見られております。従いまして、香港株式市場に関しましても、短期的に不安定な動きが続く可能性はあろうかと思われませんが、中国経済のファンダメンタルズには大きな変化はなく、今後も中国経済は堅調に推移するとみており、中長期的には株式市場も経済成長と同様に堅調に推移するものと思われれます。

以上

\* 当資料に記載されているコメント、投資環境見通しについては、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。\* 当資料はご参考資料として、安田投信投資顧問が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社を通じてあらかじめまたは同時に投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む。)をお渡ししますので、内容を十分にご確認のうえ、ご自身でご判断ください。\* 当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは完全性について明示、黙示に関らずこれを表明あるいは保証するものではありません。